

枚方市農山漁村発イノベーション推進戦略

令和 6 年 3 月

大阪府枚方市

目次

第1章 枚方市農山漁村発イノベーション推進戦略の策定にあたって・・・P1

1. 戦略策定の趣旨・・・P1
2. 戦略の位置づけ・・・P2
3. 戦略の計画期間・・・P2

第2章 枚方市の農業及び農山漁村発イノベーションの現状と課題・・・P2

1. 枚方市の農業の現状と課題・・・P2
2. 農山漁村発イノベーションの現状と課題・・・P2

第3章 枚方市農山漁村発イノベーション推進戦略・・・P3

1. 現状と課題を踏まえた農山漁村発イノベーション等の取組方針・・・P3
2. 成果目標・・・P5
3. 重点的に取り組む事項・・・P5
4. 育成を図る農山漁村発イノベーション事業体の将来像・・・P7

第1章 枚方市農山漁村発イノベーション推進戦略の策定にあたって

1. 戦略策定の趣旨

日本の農業を取り巻く情勢は、農業者の高齢化や後継者・担い手不足、耕作放棄地の増加、農産物価格の低迷等の従来の課題に加えて、原油価格・物価高騰や国際的な競争により、一層厳しさを増しています。本市でも同様の状況となっており、農業が持続可能な産業として発展するよう活性化を図る必要があります。

このような課題に対処するため、消費地に近接している本市の立地条件を生かして、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の多様な地域資源を活用し、農業者はもちろん、地元の企業なども含めた多様な主体の参画による付加価値の創出が求められます。

その実現に向け、本市における課題や取組方針など、地域の実情と目指すべき将来像についての実績を考察し、整理を行ったうえで引き続き農業を市の持続可能な産業として活性化させることを目指し、枚方市農山漁村発イノベーション推進戦略（以下、「本戦略」という。）を策定します。

※農山漁村発イノベーションとは、これまでの6次産業化を発展させて、農林水産物や農林水産業に関わる多様な地域資源を活用し、新事業や付加価値を創出することによって、農山漁村における所得と雇用機会の確保を図る取組です。



参考 令和5年7月 農林水産省農村振興局「農山漁村発イノベーションの推進について」

2. 戦略の位置づけ

本戦略は、「第5次枚方市総合計画」の施策目標 22「農を守り、生かすまち」、施策目標 23「豊かな自然環境を大切にするまち」に基づくものとして、策定します。

3. 戦略の計画期間

本戦略の計画期間は、「第5次枚方市総合計画」の実行計画の計画期間が令和6年度～9年度であることから同期間とし、必要に応じて見直しを図ります。

第2章 枚方市の農業及び農山漁村発イノベーションの現状と課題

1. 枚方市の農業の現状と課題

本市は大阪府の北東部、淀川左岸に位置し、市西部は平野が広がり、東部は生駒山地から男山丘陵に伸びる丘陵・山地地形をなしています。東部に位置する穂谷地区は、昭和60年4月に農業振興地域の指定を受けており、比較的農業の盛んな地区です。市域面積のうち約1割が農地で、うち約9割が水田であり、主に水稻栽培が中心で、野菜では、玉葱、さつまいも、トマト、えだまめ、果樹では、すももの栽培が盛んです。2020年農林業センサスでは、耕地面積が460ha、農業産出額69千万円（うち米が37千万円）となっており、近年、大消費地に近接しているという立地条件を生かし、いちごやブルーベリーなどの観光農園や市民農園の開設も増えています。

その中にありながら、大消費地に近接しているという立地条件を生かし、施設園芸、軟弱野菜の生産等収益性の高い農業経営を行っている農家があり、農用地の利用については認定農業者等を中心とした担い手への集積を進めていますが、集積された農用地は比較的分散しており、ほ場間の移動が多いことや大規模機械の導入ができないことなど、効率的な作業が進まず、担い手が経営のコストダウンを図る上で課題となっています。

2. 農山漁村発イノベーションの現状と課題

本市では、農業や食への関心度を高めるため、地元農家が育てた野菜を収穫する「農業ふれあいツアー」の他、小学生を対象に、田植え、稲刈り、調理実習を、一年を通じて実施する「食農体験学習」など幅広い世代で「農」とふれあう機会を提供しています。

6次産業化に向けた取組としては、平成30年度から市内事業者と連携し、「枚方産さつまいもたい焼き」を製作した他、令和3年度には、摂南大学農学部と連携し、「すももちゃんサイダー」を共同開発しました。いずれも令和5年度までに、ふるさと納税の返礼

品に採用されています。

課題としては、後継者不足と担い手の高齢化に伴う担い手の確保や育成のほか、農業が比較的盛んである東部地域の地域資源を活用した販わいの創出が挙げられます。また、商品開発の経験がない小規模の農業者が多いため、農産物に新たな付加価値を生む商品開発のイメージ（類似商品の比較分析、販路、顧客ターゲットの設定など）を明確にできないことや、加工などの施設環境整備に対する支援も課題となっています。



▲摂南大学と連携し共同開発した「すももちゃんサイダー」 ▲KITANO ACE と共同企画した「さつまいもたい焼き」

第3章 枚方市農山漁村発イノベーション推進戦略

1. 現状と課題を踏まえた農山漁村発イノベーション等の取組方針

本市での課題を解決するため、枚方市農山漁村発イノベーション推進戦略を策定し、農山漁村発イノベーションの推進を図ります。

（1）農業者等への支援制度の周知

農山漁村発イノベーションに関する支援制度や市独自の関連する制度を市ホームページに掲載する他、農政ニュースに記事を掲載するなど、農業者及び関係団体に対して周知します。

また、農山漁村発イノベーションの取組を検討する農業者等に対しては、国や府と情報共有を図り、活用できる支援策等を提案します。

（2）先進事例の紹介

関係者等に対して、これまでに農山漁村発イノベーションに取り組んでいる市内外の農業者等の事例を広く紹介し、本市での農山漁村発イノベーションを推進します。

また、農山漁村発イノベーションの取組を検討する農業者等に対しては、類似事例の紹介や関係者等への情報収集を行い、事業計画の具体化に向けて支援します。

（３）国、府等の支援策の活用

農山漁村発イノベーションに関する取組は、スマート農業用機械や新たな品種・技術等の導入、ロゴ作成やパッケージデザインの更新、新商品の開発、農業推進施設の整備など、多岐に渡る取組であることから、市独自の支援に加えて、国の推進支援事業、整備事業及びサポート事業等の支援策を活用し、府と連携しながら、実現に向けて伴走支援します。

また、事業計画の策定に当たっては、大阪産（もん）農山漁村発イノベーションサポートセンターからのプランナー派遣のほか、効果的な事業展開や販売促進に関する助言など、農業者が円滑に事業を進めることができるように国、府等の支援策を活用します。

<農山漁村発イノベーションに関する国、府等の支援策>

	メニュー	事業の内容
1	農山漁村発イノベーション推進事業	①地域活性化に向けた活動計画策定、関係人口創出、地域づくり人材育成、情報発信等を支援します。 ②地域資源を活用した商品開発、デジタル技術の活用に係る専門人材の派遣・育成等を支援します。 ③農泊の実施体制の整備、観光コンテンツの磨き上げ等の取組を支援します。 ④農福連携の普及啓発、障害者等の農林水産業に係る技術の習得、専門人材の育成等を支援します。
2	農山漁村発イノベーション整備事業	①農産物加工・販売施設、地域間交流拠点等の整備を支援します。 ②農泊の推進に必要な古民家等を活用した滞在施設等の整備を支援します。 ③農福連携の推進に必要な障害者等が作業に携わる生産施設等の整備を支援します。
3	農山漁村発イノベーションサポート事業	農山漁村発イノベーション中央サポートセンターにおいて、大阪産（もん）農山漁村発イノベーションサポートセンターと連携した支援を行い、高度な専門家の派遣を通じた重点的な伴奏支援や起業家と農山漁村のマッチングの取組を支援します。

（４）異業種のマッチング

庁内関係部署及びＪＡ北河内、北大阪商工会議所等と情報共有を図り、関係者との意見交換などを通して、農業者と企業等が相互の事業効果を高めることができるようにマッチングを図ります。

また、スタートアップを含めた商業、観光、工業の分野との連携を図り、それぞれの特性を生かして、新たな価値の創出を進めます。

（５）枚方市農業振興協議会との連携体制の構築

農業振興について、様々な角度から協議・検討を行う組織である枚方市農業振興協議会と連携体制を構築することで、農業者とのマッチングや営農技術指導など効果的な事業展開に向けて取組を支援します。

組織名	組織の構成団体
枚方市農業振興協議会	枚方市、枚方市農業委員会、北河内農業協同組合、大阪府中部農と緑の総合事務所、枚方市農業研究会、生活協同組合パルコープ枚方市くらし創造委員会、（オブザーバー）近畿農政局大阪府拠点 地方参事官室、（アドバイザー）摂南大学農学部

（６）ふるさと納税返礼品などによる販路拡大

農山漁村発イノベーションにより開発した商品やサービスなどを、ふるさと納税の返礼品として活用し、本市の魅力発信や特産品の PR、販路拡大による農業者等の所得向上に繋がります。

（７）プレスリリースなどによる情報発信

積極的にマスメディアに働きかけることにより、農山漁村発イノベーションに関する取組を広く発信することで、販路拡大による農業者等の所得向上に繋がります。また、本市の露出を高めて、枚方ブランドの確立に繋がっていきます。

２．成果目標

本戦略期間（令和６年度～９年度）における成果目標は、次のとおりとします。

	成果指標	目標値
１	地域に存在する有形無形の地域資源を活用し、新事業や付加価値を創出した数（＝異業種のマッチング数）	８件
２	１のうち、農山漁村発イノベーションにより開発した商品の数	４件

３．重点的に取り組む事項

（１）オンリーワンに向けた取組の推進

農林水産物を活用した新商品や新サービスの開発など、農林水産物に付加価値を高めるオンリーワンの取組を推進します。

また、積極的にふるさと納税返礼品を活用し、シビックプライド醸成と売上向上に繋がるように広く情報発信を行い、農業者等の所得向上を図るとともに、更なる経営規模の拡大や新たな企業や農業者等の参入を目指します。

(2) 地域の活性化に繋がる取組の推進

農林水産物以外にも含むあらゆる地域資源を活用した農山漁村発イノベーションを推進し、市内での雇用や所得を創出します。

また、企業等の技術力や多様な人材を活かして、産福連携などによる産業の垣根を越えた取組により、農業推進施設の開設、新たな加工品や飲食物などの新たな特産品を意識した開発を推進して、交流人口の増加と地域の活性化を図ります。

さらに、観光農園、農業体験事業の取組など、新たなサービス事業の積極的な展開を推進します。

(3) 東部地域における地域資源の活用

本市の東部地域は、日本の原風景ともいえる里山や豊かな自然、活発な農業、王仁公園や東部公園といったスポーツ施設を擁する憩いの公園、伝王仁墓や旧田中家鋳物民俗資料館といった歴史や文化に触れることができるスポット、自然体験やアウトドア活動ができる野外活動センターなど、魅力が多く存在する地域です。

一方で、東部地域の資産である豊かな自然や里山、農地の維持には人の手による管理が必要であり、未来にわたってこの資産を残し、活用していくためには、農業や里山管理の担い手育成などが課題となっています。

持続的な東部地域の活性化のために、居住環境の保全を図りながらも、多くの人に訪れてもらえるよう、日帰りや短期滞在で、グリーンツーリズムを堪能できる古民家等を活用した農家レストランや野外活動センターなどの滞在施設の充実、多様な事業分野と連携した農林体験事業など、東部地域のポテンシャルを活かした地域資源を活用して、地域としての魅力向上や賑わいの創出を図る取組を推進します。



▲第二京阪道路以東の氷室地域

(杉地区、尊延寺地区、穂谷地区) 及び津田地域



▲穂谷のコスモス畑

4. 育成を図る農山漁村発イノベーション事業体の将来像

本市の農業は、小規模の経営体が多く、従来の課題であった高齢化や後継者不足等に加え、都市化の進展に伴い、農地の減少やスプロール化による生産環境の悪化など、乗り越えることが必要な課題が多くあります。

農山漁村発イノベーション事業を推進し、観光や福祉など多様な事業分野において、事業者や大学など多様な事業主体による取組を推進することで、イノベーション事業体の育成を図ります。また、東部地域の多様な地域資源を生かし、魅力向上や賑わいの創出を図るとともに、若手農業者や一次産業に参入する企業などを次世代の担い手として育成することも重要であることから、今後も幅広い知見で人材の発掘・育成を促進します。